開成町議会第2回新庁舎に関する調査特別委員会会議録

平成28年1月8日（金曜日）

○議題

- (1) 新庁舎建設について（町長）
- (2) 新庁舎建設基本計画（案）について（財務課）

○出席委員（11名）

委員長 菊川敬人	副委員長 佐々木昇
委員 山田貴弘	委員 湯川洋治
委員 前田せつよ	委員 石田史行
委員 吉田敏郎	委員 下山千津子
委員 和田繁雄	委員 井上三史
委員 星野洋一	（議長 茅沼隆文）

○説明のため出席した者

町長 府川裕一
行政推進部長 加藤順一
財務課長 田中栄之
財務課主幹 柏木克紀

○議会事務局

議会事務局長 小玉直樹
書記 木村啓章

○委員長（菊川敬人）

皆さん、こんにちは。

ただいまの出席委員は、議長を除く11名です。定足数に達しておりますので、これより第2回新庁舎に関する調査特別委員会の会議を開会いたします。

午後 1時30分 開議

○委員長（菊川敬人）

開会に際しまして、一言、申し上げます。

委員の皆様、また執行者並びに説明員におかれましては、本特別委員会の調査の重要性をご理解いただき、皆様のご協力をお待ちして委員長の職務を全うしたいと存じますので、よろしくお願いいたします。

本日の特別委員会が実質的な調査開始であり、府川町長を初め行政推進部長、財務課長並びに財務課主幹に出席をいただいております。本日の進め方といたしましては、この後、府川町長より新庁舎建設についての町長ご自身の今のお気持ちをお伺いし、今後の特別委員会の調査に役立ててまいりたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。町長のお話の後、町で策定した新庁舎建設基本計画（案）について説明をいただき、それに対する質疑を行います。建設的な意見により、議論が深まることを切望いたします。また、本特別委員会の傍聴については、開成町議会委員会条例第15条の規定により許可をしております。

それでは、初めに府川町長から、新庁舎建設に対する思い、考え方について発言を求めます。登壇の上、よろしくお願いいたします。

町長。

○町長（府川裕一）

新しく委員会を設置されたということで、庁舎について、まず私のほうから話をさせていただきますけれども、それまでに今日までの経緯を少し説明させていただきたいなと思います。

振り返れば5年前、東日本大震災がありまして、その後、私は4月の町長選挙において、東日本大震災を見て多くの皆さんは津波ということの恐怖を目の当たりにしまして、開成町に置きかえてみると、海岸から10何キロありますので、津波というよりは隣の酒匂川を流れる川が、もしダムが、あのとき決壊をしたらどうなるのだというような大きな町民の皆さんの不安というものが4月の選挙のときにあったと思います。その後、何としても防災計画、開成町の防災をどうするのだと、そういう見直しをきちんとしていくことが必要だということで、私は、町長にさせていただいて、防災計画の見直しというものに力を入れてきました。

当時、防災計画の見直しとともに総合計画というもの、第五次総合計画を作成中でありまして、そのときに多くの町民の皆さんのご意見を聞きながら素案というものができ上がり、町で、それを練り直しながら総合計画と防災計画を同時に進行していく中で、庁舎のあり方について、防災の拠点をきちんと整備をしなければいけないという町民の多くの皆さんのご意見もいただきました。また、議会の中からも

役場庁舎を、このままでいいのかと、きちんと見直す必要があるのではないかというご意見を当時いただいた中で、総合計画の中にきちんと役場庁舎の整備の位置付けをし、基本計画の中で実施設計も含めて平成30年度竣工というものをきちんと明記もさせていただきました。防災計画の中においても、役場庁舎整備の必要性をきちんと位置付けをしてやっていくと。

そういう流れの中で、平成26年8月に基本構想等策定委員会を設置をさせていただいて、開成町の庁舎の今後のあり方について、10名の方、当時の議長を含めて一般公募が4人、委員さん10人の中で開成町の庁舎のあり方について検討していただき、基本構想・基本計画（案）というものの答申をいただいたのが平成27年3月であります。それをもとに、今度は役場庁舎の中で練りながら昨年12月に基本構想・基本計画の案というものができ上がりましたので、議会の皆さんにも今、お示しをして、これをもとに、これから基本設計というものをつくっていく。

基本計画は、今は案ですので、これから2月末の町民集会を4回予定をしておりますので、この中で町民の皆さんにも基本計画・基本構想（案）をお示しをし、これは、なかなか、文章だけですので、町民の皆さんにもわかりやすくするためには、目に見える形を示していくということが大変重要だと思っています。昨年、基本設計をするためのプロポーザルを含めて業者選定を行いました。業者さんがプロポーザルを含めて、開成町基本構想・基本計画の答申を受けて、どのような庁舎にしたらというものをプロポーザルしていただいた中で、その図柄が出てきました。

3階建てで、木を用いたハイブリッド構造の構想案というものが、こういう形で目に見えてきましたので、それも我々で見させていただき、また議会の皆さんにもお示しをさせていただいております。町民の皆さんにもホームページを含めて、そこで見られるような方策はきちんととってありますけれども、それをもとに、それが確定ではありませんので、そういう図柄はどうですかというので提案を受けて、優秀ということでその業者が決まって、これから基本構想・基本計画（案）をもとに基本設計を今年の6月までにつくっていかうと。6月以降は、今度は実施設計、来年度、建設に進んでいくと、そういう手順を今、構想の中で進めていかうと。

これは、きちんと、今までお話ししましたとおり、5年前の東日本大震災から含めて、手順を踏みながら総合計画、防災計画の中に盛り込んで、議会の皆さんの合意を得て今日まで進んできたということをぜひご理解はいただきたいと思います。平成30年度竣工を基本目標に、きちんと、これからも手順を踏みながら、丁寧に町民の皆さんにも説明をさせていただきながら、議会の皆さんのご理解を得ながら開成町らしい役場庁舎をつくっていきたい。

開成町らしい役場庁舎とは何か。私が考えるに、できれば二つのことを必ず盛り込んでやっていきたいと思うものの一つとして、やはり5年前の東日本大震災があり、あのときの原発の関係で、地産地消ではありませんけれども、できるだけ地域でできるものは地域でやっていく、エネルギーも含めて、考えていくいいきっかけとなったと私は思っています。それを含めて、あじさい公園の前に開成町の土地利

用の中の水路が張りめぐらされている中で、水を使った小水力発電装置も設置をさせていただきました。これは、その流れの中の一つであります。

そして、今度の庁舎建設においても、エネルギーゼロの庁舎をぜひ目指していきたい。今、100のエネルギーを庁舎の中で使っているとすれば、半分は省エネということで、LEDを含めて空調、採光、いろいろな設計の中で50%エネルギーをカットする。50%の残りはどうするか。これは、太陽光エネルギー、また地下水を使った創エネ、エネルギーをつくり出す。半分以上をエネルギーをつくり出すことによって、マイナス50%とプラス50%で、要はゼロ、エネルギーゼロです。今まで年間、役場庁舎にエネルギーが1,000万円かかっていたら、これを0で持っていく、そのような庁舎を目指してつくっていききたい。

幸いに、いろいろな業者さんとの話し合いの中で、この役場庁舎レベルの規模だとその可能性はできると。余り大きい庁舎だと、それはなかなか目指してもできないけれども、このぐらいのレベルならできるという可能性があるということで、今、その目標に向かって進めていきたいと一つは思っております。

もう一つは、何のために役場庁舎を新しくし、作り直すか。もちろん、皆さん方も役場庁舎の外を見ていただくとわかると思いますけれども、緑のネットが今、張ってあります。これは、昭和45年にこの庁舎ができて、もう47年たつわけで、時々、外壁が落ちるといふ現実がありますので、危険防止のために今は緑のネットを張ってあるというのが現実でありますので、また、いつ、大きな地震が起きたときに庁舎が耐えられるかという。以前から耐震問題は上がっておりますので、そういう意味も含めて庁舎整備はやるのですけれども、あわせて大事なことは、町民サービスを最大限提供できるようにしていくというのが大きな一つの課題であります。

今の庁舎は、役場に来ていただいた中で、町民センターに行ったり、ほかの部署に行ったりということで、なかなか町民の皆さんに対してのサービスが十分提供できていないのではないかと。これからの新しい役場は、町民の皆さんに来ていただいたら、町民の皆さんは動かずに、役場の職員が、それぞれの課が、担当が町民の皆さんのところに来て、ワンストップで全てのサービスができるような庁舎にしていきたいと。これは、建物の形だけができればいいということではなくて、それにあわせて役場の職員も意識改革をして町民サービスを最大限できるように。また、今は、この狭い中で個人情報や、いろいろな個人相談もできないような狭い状況でありますので、きちんと、そういうプライバシーを守りながら相談や受け付けができるような、そういう庁舎をつくっていききたいと思っておりますので。

この二つを何とか、最大限、私の目玉として庁舎整備の中に盛り込んでいきたいと考えておりますので。その辺は、やはり皆さん方のご意見を聞きながら、また、さらに、まだまだ6カ月の時間の中でいろいろなところの先進事例を調査・研究をしながら、職員には行かせて、実際、現場を見て、また、やっている人の話を聞きながら、取り入れながら、基本設計の中に盛り込んでいきたいと考えておりますので。

開成町らしい庁舎をつくっていくと。これは、豪華な庁舎という意味ではなくて、そういうふうなものがきちんと評価されるような。50年に一遍の大事な事業でありますので、そういう気持ちで私は取り組んでいきたいと考えておりますので、議員の皆さんも含めて、いろんなご意見、議論をしながら、いいものをつくり上げていきたいと。役場と議会と町民の皆さんと三位一体となって、大切な開成町の将来のために悔いのないものをつくっていききたいと考えておりますので、ぜひ、よろしくをお願いいたします。

以上であります。

○委員長（菊川敬人）

以上で新庁舎建設に係る町長の発言を終了いたします。町長におかれましては、この後、公務がございますので、ここで退席いたします。

続いて、次第に従って進めてまいりたいと思います。

新庁舎建設基本計画（案）について、議題といたします。

財務課から説明をお願いいたします。

財務課主幹、どうぞ。

○財務課主幹（柏木克紀）

財務課主幹、柏木です。よろしくお願ひしたいと思ひます。

では、説明をさせていただきますと思ひます。

現在の庁舎は、建設45年余りを経過いたしまして老朽化が進んでおります。耐震性の確保に問題があることを初め、建物の構造上バリアフリー化が困難なこと、床面積の制約から町民センターに業務の一部を分散させざるを得ないこと、駐車場が手狭であることなど多くの課題を抱え、町民にとって安全性や利便性に欠ける施設となっています。

このような課題を解決すべく、幅広い視点から庁舎建設に係る基礎的事項について調査・検討するため、新庁舎建設推進本部新庁舎建設推進部会を設けました。行政推進部長を部会長といたしまして課長級の職員で構成された新庁舎建設推進部会では、平成27年9月18日以来、会議を重ね、調査・検討を行い、五つの特定課題の検討及び調整を行うため各分科会を設置いたしました。分科会では、限られた時間の中で、先進地の視察を含め会議を重ね、特定課題について検討を行いました。それらの分科会、そして推進部会の報告をもとに、町長を本部長といたします推進本部にて議論を重ね、今回、新庁舎建設基本計画（案）をまとめさせていただいたものです。

新庁舎建設の基本理念は、開成町は田園風景や水、緑といった豊かな自然環境に恵まれた町です。新しい庁舎は、町民の生命と財産を守る防災の拠点であると同時に、この豊かな自然環境の中で「田舎モダン」を象徴し、町民が主役になってまちづくりを担う町のシンボルであり、つながりの拠点として日常、非日常を問わず町民生活をサポートする機能を果たしていく重要な役割が求められています。町民の安全と安心を支援するとともに、人と自然が調和し、未来に残す自然との共生を目

指す「田舎モダン」を象徴する優しく強い庁舎を基本理念といたしまして検討をしてまいりました。

そして、人と自然が調和した未来への空間、「田舎モダン」を象徴する庁舎というものを基本理念といたしまして、五つのコンセプトであります安全・安心の庁舎、開かれた庁舎、地球環境にやさしい庁舎、町民に親しまれる庁舎、効率性の高い永く使える庁舎、この五つのコンセプトに沿って、庁舎に導入する機能・性能を基本計画（案）で検討してまいりました。

では、まず、安全・安心の庁舎からです。お手元にお配りさせていただきました案の3ページから、ご説明をさせていただきたいと思っております。

安心・安全の庁舎といたしまして、防災機能、防犯機能について検討いたしました。大規模な災害の発生に対しても職員や来庁者の安全確保が図られ、有事の際に最も頼りになる安全・安心の中核として守り続ける庁舎とし、一時的に避難できる場所としての役割を果たすことのできる庁舎といたします。

そのために、1番といたしまして防災機能として、高い耐震性や安全性を確保した建物として、より効果の高い免震構造を計画し、災害時に対策本部を開設するための情報システム、通信機器、非常電源装置などを整備して有事に備えた庁舎といたします。

2番といたしまして、防犯機能です。防犯機能といたしましては、町民に開かれた庁舎とすることを前提といたしまして、適切なセキュリティレベルを設定し、各フロアを区分してまいります。

二つ目のコンセプトの町民に開かれた庁舎です。お手元の資料の10ページ目からになります。

町民に開かれた庁舎といたしまして、町民に開かれた庁舎としての機能として、町民サービス機能、総合窓口機能について検討してまいりました。一つ目の町民サービス機能といたしまして、町民にわかりやすく使いやすいような建物低層階に町民サービス機能を配置するとともに、相談機能といたしましては、必要に応じて個別ブースや個室を設置するなど安心して相談が行えるような庁舎を計画いたします。

二つ目に総合窓口機能です。総合窓口機能といたしまして、町民の利用頻度の高い窓口を利用しやすいように集約するとともに、1カ所で用事が済むようにサービスを行うワンストップサービス、こちらは、ほかの自治体等が取り組んでおりますより、より先進的なワンストップサービスを目指し、またプライバシーに配慮した相談スペースを設けるなど、来庁者の利便性・快適性を高める空間づくりを目指します。

続いて、三つ目のコンセプトの地球環境にやさしい庁舎です。お手元の12ページからの記載になります。

地球環境にやさしい庁舎といたしまして、環境技術性能、環境啓発機能について検討してまいりました。一つ目の環境技術性能ですが、環境技術性能で環境負荷を低減するために、省エネルギー・創エネルギー設備等、先進的な技術を導入し、か

つ、その技術が機能する最新型の庁舎を目指します。空調負荷の低減、省エネルギー設備の導入、自然エネルギーの導入、運用・維持保全の容易化、四つの項目に分類し、費用対効果を見据えた技術導入を図り、ゼロエネルギービルディング、いわゆるZEB化を目指します。また、環境配慮機能を可視化いたしまして、環境啓発を目的とした設備の設置を検討いたします。

四つ目のコンセプトの町民に親しまれる庁舎です。お手元の14ページからの記載になります。

町民に親しまれる庁舎といたしまして、近隣に配慮し良好な景観形成、ユニバーサルデザインについて検討を行いました。一つ目の近隣配慮・良好な景観形成についてです。町民が郷土に対する愛着を深め誇りが持てる、町のシンボルとなる「田舎モダン」が感じられる庁舎といたします。また、開成町らしい景観づくりを総合的かつ計画的に進め、中部地域の憩いの場であり、周辺地域を含めた地域連携の中核の拠点となす人と人とのつながりを深める良好な庁舎であり、景観づくりの拠点を目指します。

二つ目のユニバーサルデザインについてです。ユニバーサルデザインについて、段差解消など物理的なバリアの解消だけではなく、障害の有無、年齢、性別、国籍、人種にかかわらず、できるだけ多くの人にとって利用しやすくなるユニバーサルデザインを採用し、わかりやすく利用しやすいよう外部周りや空間を認識しやすくするユニバーサルデザインの視点に立った動線計画を計画していきます。

五つ目のコンセプトの効率性の高い永く使える庁舎についてです。お手元の17ページからの記載になります。

効率性の高い永く使える庁舎につきまして、職場環境機能、議会機能、共有できる多機能スペース、ライフサイクルコストの低減について検討いたしました。

一つ目の職場環境機能についてです。事務所エリアの構成は、町民ニーズや社会状況の変化に柔軟に対応し、かつ各部、各課の業務内容に応じたオフィスレイアウトに対応できるよう、開放的で視認性のよいオープンフロアを基本に計画いたします。日常的に必要な打ち合わせスペースを各事務空間内に位置し、ニーズの多様化に対応するために上下階の職員間のコミュニケーションが図れる構成を計画いたします。

議会機能についてです。議会機能につきましては、お手元の19ページからの記載になります。議会機能につきましては、開かれた議会を目指すとともに効率的な議会活動が行われる議場を計画し、セキュリティの確保にも配慮してまいります。

三つ目の共用できる多機能スペースです。各機能が求める諸室を共有化することで建物をコンパクトに計画するとともに、建物のライフサイクルコストの低減に寄与するように、共用できる多機能を集約したスペースとして計画いたします。

ライフサイクルコストについてです。ライフサイクルコストにつきましては、庁舎の建設費のみならず、長期的な視点から見ていかに効率よく運用していくかを考える必要があるため、建物のライフサイクルコスト、建物の誕生から終わりまで

ですが、そのライフサイクルコストの低減をする計画をいたします。

お手元の資料の22ページからになります。庁舎整備の規模です。

庁舎整備の規模につきましては、延床最大4,800平方メートル程度と基本構想の案のほうに記載をさせていただきましたが、その4,800程度について検討をしてみました。新庁舎に必要な施設規模については、平成30年の職員数の145名として設定をいたしまして、執務スペース、町民スペース等を詳細に算出し、その積み上げたスペーススタンダードによる算出を採用して4,800平方メートル程度と算定をさせていただきました。

また、駐車場につきましては、現庁舎敷地の駐車台数を基本といたしまして、現在確保されている駐車台数に加え、役場等で行われる行事に対応するための余裕台数を見込んで87台と計画をさせていただきました。

最後に、新庁舎の空間構成です。お手元の資料の36ページからになります。

新庁舎は、町民センターとの連携を考慮した中で、両施設のバランスを考慮した配置を計画いたします。新庁舎と町民センターの連携により、町民サービスのより一層の向上を図ることができ、さらには災害時に一体性のある効果的な行動のとれる災害対策拠点としての機能の充実を目指し、配置により想定される敷地内の各種動線については、安全性を確保したものとしっかりと検討をまいります。

内部構成についてですが、内部構成の町民サービスゾーニング、町民が利用される場所につきましては、利用しやすさ、開放感を優先いたしまして、基本的に低層階に設ける計画といたします。

行政機能ゾーニングにつきましては、来庁者の利便性と職員の業務効率の向上等の観点から町民サービス部門を1階に、政策・行政管理等の管理部門や会議、福利厚生施設は中間層に計画をいたします。また、議会につきましては、最上階に配置することと計画いたします。

そのイメージ図といたしまして、39ページに記載をさせていただいたものが各階層の配置計画のイメージとなっております。

第1章の基本計画につきましては、以上の内容です。第2章につきましては、先ほどご説明をさせていただきました各分科会、そして推進部会の検討報告書になってございます。

説明は以上です。

○委員長（菊川敬人）

説明が終わりました。これより、ただいまの説明がありました新庁舎建設基本計画（案）についての質疑を行いたいと思います。質疑については、基本計画（案）全体に関する質疑とします。なお、本日の説明を受けて次回の特別委員会においても再度、詳細質問を行いますので、ご承知おきください。質問の場合は挙手の上、指名されてから発言をお願いいたします。

質疑をどうぞ。質問はございませんか。

石田委員。

○5番（石田史行）

5番議員の石田史行でございます。

まず、今日、町長においでいただいて思いを語っていただいたにもかかわらず、質疑ができないというのは非常に残念というか、遺憾に思います。その上で、今日、行政推進部長と財務課長が町長だと思って、町長の答弁だと思って、私、質問いたしますので、誠実な誠意ある答弁をお願いしたいと思います。

まず、一言申し上げたいのは、庁舎建設につきましては、町長も先ほど申し上げられたように、必要性は我々議会、議員全員が、それは全く異論はないのです。必要性に関してはね。ただ、そのことを申し上げた上で質問いたしますが、今回、お示しいただいた基本計画（案）ですけれども、中身を見ますと、知りたいことが、肝心なことが抜けているなというのが私の第一印象です。

というのは、まず財政面のことです。建設費のこと、それから維持管理費のこと。20ページを見ますと、20ページ、21ページにライフサイクルコストの低減、建設費、維持管理費と書いてありますけれども、極力建設費を抑えるとか維持管理費の低減を図ると。これは当たり前のことであって、では、具体的に今回の事業費がどのぐらいになるのか。そして、それを、その財源について、どういうふうに財源を確保するのか。恐らく起債によると思うのですけれども。

私、これまで一般質問の中で、庁舎建設の財源をどのように持ってくるのだという質問をさせていただいた中で、75%程度、起債をすると、頼るということでありましたけれども、そういったこともちゃんとここに書いていただかないと。町民の方に、この基本計画（案）をもとに説明をされるわけですから、もっと具体的にすることを求めたいと思いますけれども、どうでしょうか。

○委員長（菊川敬人）

財務課長。

○財務課長（田中栄之）

それでは、ただいまの石田委員のご質問にお答えをしたいと思います。

先般12月定例会議でも山田議員より同様のご質問がありまして、そのときもお話を申し上げたとおり、基本構想、それから基本計画という段階ですから、例えば、面積一つをとっても、本日も申し上げたとおり、最大が4,800と申し上げておりますので、まず、この面積が確定しない段階でなかなか正確な数字を申し上げることは難しいと。

ただ、何もないということでは説明ができないということで、18億8,000万円という数字は既に表に出しておりますから、18億8,000万円をベースにお答えをさせていただいたというふうに記憶をしております。12月定例会議におきましては、その経費の内訳としては、基金が3億5,000万円、それから29年度と30年度に単体で1億円ずつの一般財源を投入、残りの13億3,000万円を起債するというところで、12月定例会議でお答えをさせていただいておりますので、現段階では、あくまでも、それが一つの考え方だというふうにご理解をい

ただきたいと思います。

○委員長（菊川敬人）

石田委員。

○5番（石田史行）

それは私も質問を聞いていたのでわかりますけれども、そういったことをちゃんとここに書くべきではないですか、基本計画に。そういうふうに財源を確保するということをね。

○委員長（菊川敬人）

財務課長。

○財務課長（田中栄之）

ちょっと私のほうのお答えが足らずに、大変申しわけございませんでした。

これ、各新庁舎を建設しました市・町の基本計画をご覧いただければわかると思うのですが、そこまで踏み込んで書いてあるケースは大変まれでございます。それはなぜかという、先ほどの繰り返しになりますけれども、設計が終わらないのに金額を出すということはやはりなかなか難しいということです。ですから、繰り返しになりますけれども、最大限、マックスの数字をとりあえず押さえた上で、そこから、どれだけ、ここから先でいわゆる縮小なり減額なりができるのかということを検討してまいるという基本的な考え方には変わりはありません。

○委員長（菊川敬人）

石田委員。

○5番（石田史行）

基本計画に事業費の試算を出すことはまれだとおっしゃいましたけれども、横浜市さんがちょうど今、新庁舎を我々と同じようにオリンピック前を目指してつくっているんです。基本計画が、もうでき上がっているのです。基本計画を見ますと、ちゃんと事業費の試算、このくらいかかりますよと、それから、あと維持管理費、具体的な数字を試算としてちゃんと上げているのです。だから、上げることは可能だと思いますよ。やはり、そういうことを出さないと。この文章を見ただけでは判断ができない、町民は。どうですか。ちゃんと数字を出すべきだと思いますよ。

○委員長（菊川敬人）

財務課長。

○財務課長（田中栄之）

それではお答えをさせていただきます。

ただいまの数字の18億8,000万円というのは、既に基本構想には上げさせていただいている数字だというふうに理解していただいて結構です。ただいまの横浜市の例は、逆に、大変逆手をとるようで恐縮ではございますけれども、ご承知のように、そこに書かれた金額というのは、今現在、進められている建築費とは、かけ離れた数字になっているというふうに私は認識してございます。それはなぜかという、やはり計画段階で出された数字と、実際に建てていくと、横浜市さんの場

合には大きさが全然変わってしまっていますので、その数字どおりになっていないということからすれば、幾つかの数字をここで上げることは可能ではありますがけれども、それが現実になるか、ならないかという観点で申し上げれば、幾ら数字をここで上げて、そのこと自体は、今後の設計をした中で明らかにこの数字になりますというところまでは、確定数値としてお示しすることは難しいというふうに考えているところでございます。

○委員長（菊川敬人）

石田委員。

○5番（石田史行）

維持管理費、これくらいかかるとか、建設費をこれだけかかるということの基本構想に書くのではなくて、基本計画に書くのが普通ではないのですか。だって、基本構想というのは、あくまでも庁舎建設の基本理念ですよ。それが、何で基本構想に盛られているわけですか。基本計画にちゃんと、事業手法のことも含めて、スケジュールも含めて、基本計画に載せるべきでしょう。僕、そもそも、それがおかしいと思っていて。基本構想のほうに、事業費のこととか事業手法のこととか載せているのです。今の基本構想（案）は。これは基本計画に載せるべきだと私は思いますけれども、どうですか。

○委員長（菊川敬人）

財務課長。

○財務課長（田中栄之）

それでは、ただいまのご質問にお答えをしたいと思います。

今、申し上げたとおり、基本構想がまずあって、基本構想の上に基本計画と。逆ですね。基本構想が上にあって、それを実施に移すための計画というものを立てたのが基本計画というふうに考えてございますから、基本構想にうたってあるということは、大前提がまずそこにあって、それに基づいて基本計画を作成していくということからすれば、どちらに書いてあるかということよりも、基本構想でその数字は明確にしてあるということの意味においては、明らかにしたということには変わりはないのではないかと考えていますので。現段階では、基本計画に同じことを二度書くということは想定していないというところでございます。

○委員長（菊川敬人）

ちょっと待ってください。もう4回を過ぎましたので、また後で。

では、次の方、どうぞ。

湯川委員。

○3番（湯川洋治）

3番、湯川です。

今の質問に関連して質問させていただきます。私、12月の議会でも申し上げたのですけれども、庁舎建設に係る費用、本体工事ですね、必ず18億という数字が出るのですけれども、前も申し上げましたけれども、附帯工事を含めると29億4、

000万という数字が出ているのです。やはり、私は、この数字を基本ベースに町民に説明すべきだと思うのですけれども、いかがですか。

○委員長（菊川敬人）

財務課長。

○財務課長（田中栄之）

それでは、お答えをしたいと思います。

ただいまの湯川委員のご指摘というのは、一つ、ごもつともだなというふうに思いますが、ここでは新庁舎建設の基本構想・基本計画ということでございますので、基本的には庁舎にかかわる部分の審議であるというふうに理解をしております。周辺整備というのは、ちなみに道路改修等も含まれていますので、これは、確かに庁舎と一体では考えてまいりますけれども、庁舎建設費と直接的にリンクするというふうには考えておりませんので。あるいは同じタイミングで全てをこなすということも考えておりませんから、まず庁舎を建てて周辺整備。例えば、現庁舎の取り壊しなどについては、その後の工事ということになってまいりますので、一応、考え方とすれば、庁舎建設の基本構想・基本計画という意味では切り分けて考えさせていただいているというふうにご理解いただきたいと思います。

○委員長（菊川敬人）

湯川委員。

○3番（湯川洋治）

言われることはわかるのですけれども、財政問題が一番関心がある問題なのです。どうも聞いていますと、18億という数字でいってしまいますと、18億で全てが決まってしまうかのような誤解を招かれると、やはり町民に説明ができないのではないかと。こういう判断で質問しましたので、よろしくお願いします。

○委員長（菊川敬人）

特に、いいですか。ほかに、どうぞ。

佐々木委員。

○1番（佐々木昇）

1番、佐々木昇です。

私もちょっと関連的なことですがけれども、町長のお考えが、以前、同僚議員の方が質問されたときに、起債とか財源というか金額ですがけれども、世代間の公平性をもってということで将来的にも借金というか、あれをつくっていくという考え方をしたけれども、私は実際、現段階で行政運営をしていくときには、後世の次世代の人たちにできるだけ借金はつくらないというような考えでいるのですけれども。

これは町長のお考えなので仕方ないと思うのですけれども、そういう考えであるから、今、湯川委員もおっしゃいましたけれども、ほかにも今後、お金がかかるわけです。また違うところでもいろいろな事業で計画されている、予定されている事業もありますので、やはり、この辺はしっかりと、今後の財源、その辺のシミュレーションあたりは私も出していただかないと。ここ単体でこの金額を提示されたらと

ということで、そういうことを含めると、庁舎建設単体の話ではございますけれども、なかなか、ここで腑に落ちないところがあるといいますか、そういう部分を感じられますので、できるだけ、そういうシミュレーション的な財源のあれはしっかりと出していただきたいというふうに、また同じような質問になるかもしれませんが、私も思うのですけれども、どうでしょうか。

○委員長（菊川敬人）

財務課長。

○財務課長（田中栄之）

それでは、佐々木委員のご質問にお答えをしたいと思います。

1点目のいわゆる起債の関係につきましては、これも一般質問の中でもお答えしているとおり、では、ただいま、今、皆さんがここにいる庁舎、これは誰がお金を負担して建てたのですかという話になってまいります。当然、家を建てる時と一緒に、その瞬間に全てを一括で払えればいいわけですけれども、長く使うということを考えれば、特に公共施設については、耐用年数も考慮した上で、その一部については後年度負担が生ずるのも、これは基本的な考え方としていたし方ないのかなというふうに考えてございます。

それから、2点目の財政推計につきましては、先般、お話ししたかと思いますが、2月の全員協議会におきまして、向こう3年間の財政シミュレーションというのをただいまつくっておりますので、これを明らかにした中で、またご説明をさせていただくというふうに考えてございます。

以上です。

○委員長（菊川敬人）

佐々木委員。

○1番（佐々木昇）

あと、もう一つですけれども、これ基本的な考え方なのですけれども、ちょっとお聞きしたいのですけれども。こういうときには、町の財源、まず財源を考えて、庁舎建設に幾ら充てられるかなとか、そういうことを考えて設計に入るという考え方というものはありますかと思うのですけれども、そういう考え方は庁舎建設なんかではあまり考えないのか。ちょっと、そのあたりの。これは、設計である程度の大きさとか、そういうものを決めた中で今は金額設定されていますけれども、まず町に合った財源、幾らぐらい払いますよとか、そういうところを決めた中で、では、このぐらいの規模のものにしましょうかとか、そういう考えというのはあまりされないのか、ちょっとお聞きします。

○委員長（菊川敬人）

財務課長。

○財務課長（田中栄之）

ただいまのご質問にお答えしたいと思います。

ちょっと質問が難しいので、答えもなかなかしづらいところもあるのですけれど

も、どちらかという、今回、金額よりも先に出てくるのはやはり大きくなってまいります。先ほど言いました百四十数名がこの中で職務を行うということを考えたときに、従前お話ししましたスペーススタンダードと申しまして、1人当たりが必要となる面積の掛け算からすれば、その時点で3,500平方メートル程度の、まず事務室としてのスペースが必要である。プラス、当然、皆様にお使いいただくにはいけない場所を足し算した結果が、おおむね4,800平方メートルですよということになりますので。

これに各近隣の市町村の庁舎を建てたときの平均単価を掛けた結果が、先ほどから申し上げている18億8,000万円という数字になってございますので。どちらかという、もちろん金額が一番大事なことではあるのですが、設計をするに当たっては、金額に枠をかけて大きさを縮めていくということであると、まさに何のために建てるのだというお話になってしまうので、現段階では、そこを中心に考えているということではないというふうにお答えをしたいと思います。

○委員長（菊川敬人）

佐々木委員。

○1番（佐々木昇）

すみません。では、もう一つですけれども。すみません、後で。

○委員長（菊川敬人）

では、ほかにありますか。

吉田委員。

○6番（吉田敏郎）

6番、吉田です。

基本的なことになるかもしれませんが、一応、新庁舎建設、30年度、31年3月の竣工を目的というか、それをしているわけですけれども、ご存じのとおりオリンピックがあります、2020年。そういうことで、オリンピック特需で人と物が集まらなくなるということで、人材が高くなるということはもちろん承知の上で考えているとは思いますが、その前、2、3年かけてインフラ整備が始まると思います。そういうことで、時期としてオリンピック後に建設する考えというのは今もって考えはどうか、まず最初にお聞きしたい。

○委員長（菊川敬人）

行政推進部長。

○行政推進部長（加藤順一）

吉田委員のご質問にお答えしたいと思います。

建設の時期について、オリンピックという要素が加わったので見直したらどうだというお話かと思えます。私どものほう、この庁舎が、先ほど町長が申しましたとおり、防災拠点としての機能を満たしていないと、これが、とにかく最大限、急がなくてはいけない理由でございました。ご案内のとおり、南地区の土地区画整理事業、あれには、それなり、それなりといえますか、膨大な資金を必要としておりま

して、庁舎は早く建てたかったのですけれども、その間、できなかつた。では、土地区画整理が終わったので、今現在のシミュレーションの中では決して不可能ではない。この状況の中で、一刻も早く庁舎を整備したいというような思いから、この時期を設定したものでございます。

先ほど申しましたとおり、では、オリンピックが終わったところまで地震が来ないかという、そういうわけではない。そういうことを考えますと、できるだけ早い時期にというのが、ずっと思っておりました町としての構想ではございましたけれども、そういったことを勘案して決めたものでございます。確かに、オリンピック特需というお話もございますが、では、オリンピックが終わったら、いつ、そういった部分が解消して物価が下がるのか、これもまた読めないところでございます。そういったことを考えれば、読めないから先に送るというよりは、現段階で、できることはしていきたいと、このように考えているところでございます。

以上です。

○委員長（菊川敬人）

吉田委員。

○6番（吉田敏郎）

吉田でございます。

今、部長のほうから答弁をいただいて、それは理解をしているところでありますけれども、現在も、12月31日までに耐震等々のことでそういう報告をして、各自治体でも、そういうことで各知事等々が報告するということがあります。その中で大手ゼネコン等々にお話を聞きますと、今でさえも人手が集まらない、物が集まらない、大変な思いをしているということで、いろいろな自治体の入札関係においても、かなりの差額で落ちないと、落札ができないというような形も聞いております。

そういった中で、確かに、これから30年度に向けてやる、少しでも早くという、それはわかります。非常に防災拠点としての、町民のためのことを思っているというところはわかります。しかし、そういうことを考えても、今の時点でもこういうふうに人材が集まらない、物が足りない、そして、そういうことが非常に厳しいということも聞いております。そういう点で、そのときになって大変なお金がかかる、また人、物が集まらない、都市、東京、横浜に集中してしまう、そういうことを考えた中でオリンピック以降に竣工にしたらどうかということで聞いているわけなのですけれども、しつこいようですけれども、そういうことを考えて、いかがでしょうか。

○委員長（菊川敬人）

財務課長。

○財務課長（田中栄之）

それでは、私のほうからお答えをさせていただきたいと思っております。

これも、やはり従前、一般質問でお答えをしたとおりで、我々も当然、日々、建

設業者さんからの情報というのは仕入れております。皆様の口から出てくる言葉は、やはり人材確保というお話がございまして、ここの最大の問題は実は高齢化だというふうに私はお伺いをしてございます。したがって、年数が過ぎると、逆に職人が減って若い方がなかなかその職につかないということからすると、業界全体の問題は、どうやらそこにあるのだというふうに我々はお伺いしておりますので、今、言う、オリンピックが過ぎたからといって急に手があいて職方の方が増えるということとはなかなか考えづらいのかなというのが1点と。

それから、これは少しお話としてはつけ足しになりますけれども、実は、平成34年11月をもって、今、使われている防災行政無線、これがアナログ波なのですが、これの使用ができなくなります。もう、デジタル波に切りかえなくてはならないということになります。そうしますと、ご承知のように、庁舎の一番屋上には、そのための施設が立ってございますので、34年12月1日にはデジタル派を使った防災行政無線を持っていないとしないということから考えますと、オリンピックが終わってからの着工では、こちらのほうの対応が間に合わないというような事情も一つ、ここで判断をしたことのファクターとしてはあるということを申し添えたいというふうに思います。

以上です。

○委員長（菊川敬人）

ほかにございませんか。

和田委員。

○8番（和田繁雄）

8番、和田でございます。

先ほどからいろいろ同僚議員が質問しておりますけれども、ずっと基本計画、これを見させていただいて、我々に何の判断を求めているのかというのがよく見えません。これ、私の感覚からいくと、基本計画というのは、スケジュールがあって、お金がきちんと書かれて、初めて基本計画になるものだというふうに思っております。これは、先ほど石田さんも大分強く言われておりましたけれども。これを見て、我々に何の判断を求めているのかなと。

今後のスケジュールとも絡みますけれども、例えば、我々が、これ、ずっと見させていただく限り、特に反対する項目はありません。ユニバーサルデザイン、いろいろなもの、「いいんじゃないの」という話になりますけれども、これをもって我々が「いいんじゃないの」と言ったときに、次のステップ、最終判断、例えば、議会としての最終判断をするタイミングはどうか、そのときにはどういうふうな材料が出ているのか、その辺をもう一度確認をさせていただきたいと思います。

○委員長（菊川敬人）

行政推進部長。

○行政推進部長（加藤順一）

和田委員のご質問にお答えしたいと思います。

先ほどの石田委員との質疑もありましたとおり、まず、基本構想の中で、私どもとしては財源というより経費の問題等を既にお示しをしているところ、それを前提として、現在、特別委員会が議会のご予定の中で設置され、今、基本計画について説明をせよということで、ご説明に上がっているところでございます。ご判断基準としまして、私どものほうは、もう既に提出しているもの、これは既に提出しております、それに加えての基本計画、ここで新たにつくりましたので、このご説明に上がっておりますので、その中身についてご判断をいただきたいというのが、今回、私どものほうとしては、こちらにお伺いしている、立場としては、そういう形になるかと思えます。

○委員長（菊川敬人）

財務課長。

○財務課長（田中栄之）

私のほうから、逆に1点、大変申しわけありません、確認をしたいのですけれども、12月定例会議におかれまして特別委員会を設置されるときの、こういう理由でつくりますといった趣旨からすれば、こちらが何を見ていただきたいというよりも、皆様のほうでどういう議論をされて、我々の出した計画に対して、こういうところがだめなのではないかと、ただいまご質問がありましたけれども、そういったものを整理されるための委員会だというふうに私どもは認識して本日出席をしておりますので。どうしてほしいのだということで、こちらにお話を振られましても、なかなか答えをしづらいというのが実際のところですので、ぜひとも、そこら辺はご理解をいただいて進めていただければなというふうに思うところではございます。

○委員長（菊川敬人）

和田委員。

○8番（和田繁雄）

ありがとうございます。ということは、この基本計画、これ以降に、先ほどから石田議員がいろいろ質問しておりましたけれども、お金の問題、スケジュールの問題、これが、いつ出るのかということをお金は一番の眼目として聞いたのですが、その辺はどうお考えでしょうか。

○委員長（菊川敬人）

財務課長。

○財務課長（田中栄之）

それでは、お答えをしたいと思います。

ただいまのお話については、基本設計、こちらが済んだ段階で、当然、基本設計ですから大きさも決まりますし工法も決まっています。そこからはじき出した工事費というのも出てまいりますので、その段階で全てが明確になるというところでございます。

それは、日程としましては、現時点では基本設計の終わりは平成28年3月としてございますけれども、以前、お話を申し上げたとおり、これを平成28年6月ぐ

らいまで延ばした中でやってまいりたいと思ってございますので、28年6月末を目途に、今、言った基本設計が出されまして、その中身を見ていただければ、大きさ、金額、あらかたの施設の概要等もはっきりしたものが出てくるというふうに考えてございます。

○委員長（菊川敬人）

和田委員。

○8番（和田繁雄）

最後の確認をさせていただきたいのですが、ということは、例えば、議会の同意もしくは承認、これが要る時期は、全ての基本設計が終わった段階で我々は同意なのか不同意なのか決めればいいと、そういうことでよろしいのでしょうか。

○委員長（菊川敬人）

財務課長。

○財務課長（田中栄之）

ただいまのご質問にお答えをしたいと思います。

ただいま、同意ですとか承認という言葉がございましたけれども、大変恐縮なのですけれども、このこと自体に関する同意ですとか承認を求めるというタイミングはございませんので。その場合には、あとは予算案というものは当然、その後の実施設計あるいは工事費そのものに対する予算が出てまいりますので、この段階でのご審議を待っていただくというような形になるというふうにご理解いただきたいと思えます。

○委員長（菊川敬人）

ほかに、どうぞ。

石田委員。

○5番（石田史行）

5番議員の石田史行でございます。

先ほどの続きなのですけれども、続きといたしますか、今のご答弁を聞いていますと、別に、今年6月に基本設計ができる予定でありますよと。その中で具体的な数字も出せますよというご答弁をいただいたということは、それはあれなのですけれども、そうしますと、今度、2月に町民集会を開きますよね。では、ここでは具体的なことが示せていないわけで、示すことが難しいわけで、これは何のために町民集会を開くのですか。そんな具体的な財政のシミュレーションもしていない、正確な数字も出せないのに、これでは町民の皆さんだって是非を判断できないですよ。何のために町民集会を開くのですか。

○委員長（菊川敬人）

財務課長。

○財務課長（田中栄之）

ただいまのご質問にお答えをしたいと思います。

ただいまお手元の基本計画を見ていただくとわかりますとおり、「案」とついて

ございます。これ、「案」とつけている意味というのは、当然、これから行われま
す町民集会、あるいは、その他の場面においても、この基本計画を手直しする用意
があるという意味での「案」でございますので、どうも、これで全てかたまって一
歩も譲らないというような認識をお持ちのようなご質問でございますけれども、決
してそういうことではありませんので。こちらとしては、今、持っている材料を全
て明らかにした上で皆さんの意見を頂戴して、その中で「確かにそのとおりだな」
というものがあれば、基本計画そのものも当然、手を加えていくと。したがって、
それを生かした基本設計につながってまいりますので、やることについては十分意
味があるというふうに考えてございます。

○委員長（菊川敬人）

石田委員。

○5番（石田史行）

石田史行でございます。

やはり町民の皆様の説明会をする以上は、もっと、確定的なものを出せとは言
いませんけれども、現時点での維持管理費とか財源構成、財政のシミュレーション、
こういったものを出すことは十分可能だと思うのです、今の段階で。あくまでも試
算ですよという条件をつけてね。そうしないと、町民の皆さんが、果たして、これ
庁舎建設に賛成か反対かという判断が、この基本計画では私はできないと思う。そ
れは、総論としてはすばらしい庁舎ができ上がりそうなイメージはありますけれど
も、やはり町民の多くの皆さんが財政的な負担というものがどうなるのかという
ところに、ご懸念を、私、たくさんいただいているのです。ですから、そういった
ことをきちんとね。財政的に問題ありませんと、財源もしっかりと、このように確保
いたしますと、そういうことをきちんと基本計画に書くべきではないですか。

○委員長（菊川敬人）

財務課長。

○財務課長（田中栄之）

ただいまのご質問にお答えをしたいと思います。

繰り返しになりますけれども、基本構想に記入してございますので、基本計画に
記入する考えは現時点では持っておりません。ただし、町民集会においては、当然、
説明するときにリーフレットをお渡しすることにしてございますので、その中に基
本構想から抜粋する形で、今、こちらで想定をしている金額ですとか面積、それか
らコストの関係ですね、こういったものは資料として提出するということは検討し
てまいりたいというふうに思います。

○委員長（菊川敬人）

石田委員。

○5番（石田史行）

やはり、これだけでは、とてもじゃないですけども、町民の皆さんにご理解い
ただけないと私は思います。もっと詳しいデータというものを、今の段階で出せる

ものでいいですから、出すことを強く、私、申し上げたいと思います。

そして、そもそも論なのですけれども、私、この進め方としてちょっと疑問を覚えるのが、基本設計の業務委託の業者が11月に決定しているのです。これは、おかしくないですか。だって、町として基本構想・基本計画（案）というものを今、議会に提示いただいて、そして、これから町民集会をやるわけです。それで、いろいろな意見をいただいて修正するわけですよ。そういったことをする前に、もう既に昨年11月に基本設計の業者が決まっているというのは、おかしくないですか、やはり。普通は、我々の議会の審議、そして町民集会を経て、そして基本計画を決めて、町としての、そして、その上で、どの業者に委託するのかという入札業務に入るとというのが、それが順番として筋ではないですか。

○委員長（菊川敬人）

財務課長。

○財務課長（田中栄之）

ただいまのご質問にお答えをさせていただきます。

ただいま石田委員のおっしゃるような方法も一つあるということは承知はしてございますけれども、では、今の時点で、その業者に対して既に設計をしろという指示をしているかといえば、まだ何もしてございません。これは入札のタイミングが11月というところで行われただけですので、今、おっしゃるとおり、細かい詳細の部分が決まらない段階で設計に入ってはございませんので。順番が逆というのは、設計の業者が確定したタイミングが早かったというご指摘であれば、それはそのような形で受けとめますけれども、それをもって現段階で先に進めていると、要は、話を皆さんにする前に勝手にやっちゃっているのではないかというような、もし、ご趣旨のご発言であれば、それはちょっと現状とは違いますので、ここで、そういうことではないということだけは、はっきり申し上げたいというふうに思います。

○委員長（菊川敬人）

ほかにございませんか。

山田委員。

○2番（山田貴弘）

2番、山田貴弘です。

建物の全体、自分、12月の一般質問である程度質問しているので、それと関連する部分が出てくるかもしれないんですが、先ほど町長の答弁というか、意見ですね、意見の中で、庁舎建設については50年に1回の事業だという発言をされました。正直言って、50年に一度、要するに、逆に返せば50年後にまたつくるような考え方で事業を進めていいのかというものに物すごく疑問を持ちました。計画（案）の中では、免震構造を用いた中で、より耐久性のある建物をつくらうではないかという指針が示されているにもかかわらず、現況はなくても50年もとうとしている庁舎と何ら変わらない発想のもとに計画を進めているというのは、ちょっとナンセンスかなという部分を感じています。

そのはね返りに何があるかという、18億8,000万円という建設費を示している中で、免震にかかわる事業費というのは15%程度割り増しという形で費用を見ているというふうに感じているのですが、その部分で防災拠点の中心になるのだという。そのためには、免震を備えた中で耐震性のある強度のある建物を建てていくのだという強い意志を持った中で、従来は50年であるものを、100年とは言わないですよ、10年でも20年でも、もたすようにして費用対効果を持たせていくという、そこら辺の信念を今日の意見で言っていただかないと。それを、もともとのスタートを50年と言っているのですよ。これ、どう思いますか。そのような形の中で庁舎建設をされては、18億8,000万円が安いのか、高いのかという判断そのものも壊れていきますので、そこら辺の考え方というのを再度お聞きしたいと思います。

○委員長（菊川敬人）

行政推進部長。

○行政推進部長（加藤順一）

山田委員のご質問にお答えしたいと思います。

町長の発言を私のほうで補足するというのも何なのですけれども、町長の発言の趣旨は、現庁舎がおおむね50年前に建ったと。それを経て、50年たった今、新たな庁舎建設をしているということで、決して、これから建てるものを、50年先にはもう使えなくなるかもしれないというような趣旨での発言ではないというふうにご理解いただいてよろしいかと思います。50年、たまたま、この庁舎が50年たったから、50年に一度の次のやつをつくり出すのだと。次の50年を、50年後にまたつくるという趣旨の発言ではないというふうにご理解いただきたいと思います。

○委員長（菊川敬人）

山田委員。

○2番（山田貴弘）

2番、山田貴弘です。

町長はここにいないので、部長の答弁でご理解するわけにはいかないのですが、やはり、言葉で言っていることというのはすごく大事なのです。町長発信というのは、単なる見た目、もしくは建物的に、もう老朽化が進んでいるから建てたいのだよ、建てたいだけでは町民に説明責任というのは果たせない、庁舎が老朽化しているという部分を明確にし、昔でいえば震度5に耐え得る建物。今現在の公共施設というのは、震度6に耐え得る施設をつくりなさいという指針が出ているわけではないですか。そう考えたときに、庁舎というものが耐震性にすぐれていないということがはっきり数字的にわかるという。それは、行政サイドのほうから発信するというのも一つの手だと思いますが、やはりそれは町長が町民の前で示していかななくてはいけないという。簡単に50年ごとの事業だと言ってはいけないというふうに思いますので、そこら辺は、行政サイドの中での推進会議というのですか、庁舎

建設会議の中では、それは明確に。75年なのか100年なのかわからないですけども、現状よりか、こういう設備をそろえた中で、もたせるようにしていきますという発信を、できればしていただきたいというふうにお願いを町長にしておいてください。ぜひとも。

それと、あと、庁舎建設については、これから2月に町民集会を開く中で、自分が思っているのは、庁舎建設をするかしないかを聞くとは思っていないのです。もう庁舎建設はやるのだという方針のもとで、2月に説明会をやると思いますので。その中で、基本計画に示された細かい内容で、もうちょっと付加価値がつくものを町民の皆様方からアイデアとしていただくという。それで、後悔というのですか、ない庁舎を町民の皆様とつくっていくというふうには自分は思っていますので、やはり、それは町民集会に生かされていかななくてはいけないので、それを、庁舎をつくるのだ、つukらないのだという議論には決してならないようにお願いしたい、そのように進めていただきたいという。

あくまでも、先ほどの18億8,000万円、そういうのを基本計画の中に示したほうがいいのではないかというのは、もっともだとは思いますが、それありきではないと思いますので。町民の皆様から意見をもらったときに、例えば、先ほど言った免震構造、ゴムを下に置いて云々というのが書かれています。そういうものが、例えば町民の皆様に投げかけたときに、そこまで要らないだろうというときには18億8,000万円から15%ほど下がるとか。そういう方向性があるので、そこら辺なんかも丁寧に説明をしていただきたいというふうには思いますので。財政的なシミュレーションは、ペラでも何でもいいので、そこら辺は出されたほうがいいのかというふうには思いますので、それは、よろしくお願ひしたいと思います。

それと、あと、庁舎に導入する機能、性能ですね、これを五つの項目に分けた中で、各分科会で議論されたものがそのまま内容に上がっていると思うのです。そこら辺の分科会の、5名程度で進めたと思うのですが、ここら辺のさらなるプラスアルファというものが逆に言う町民集会なのだよというふうには考えていいものなのか。要するに、細かいところまで議論をするのかどうかという今後の進め方について、お聞きしたいと思います。

○委員長（菊川敬人）

行政推進部長。

○行政推進部長（加藤順一）

後段部分につきましては、また財務課長がお話しさせていただきますけれども、前段の町民集会について。昨日、庁舎内、新年を迎えまして政策決定会議を行いました。町長から町民集会に向けての基本的な考え方を示されたところでございます。山田議員は庁舎建設はもう前提としてというお話をいただきましたのですけれども、やはり町長の思いとしましては、庁舎建設の必要性、これをまた改めて十分ご理解いただきたいと、こういう思いがありますので、そういったお話も、もちろんさせていただきますたいと思います。

その上で、では、どういったものが建つのかという部分が、できるだけ可視化したものでお示しできるようにしていきたいという思いが、町民集会開催に当たっての町長の思いということでございますので、現段階ではございますけれども、そういった方針で町民集会の構成を考えているということは、まずお話しだけしておきたいと思います。

○委員長（菊川敬人）

財務課長。

○財務課長（田中栄之）

それでは、後段のほうの回答をさせていただきたいと思います。

当然、町民の皆様においでいただきまして貴重なお時間を頂戴するわけですから、そこでいただいた意見というのは、こちらのほうに生かしていくということは考えてはございます。ただ、難しいのは、1人の方が言ったからといって、それをすぐに取り上げて、その全てを新たな計画に盛り込むのかという判断については、大変申しわけないのですが、お任せをさせていただきたいというふうに考えるところではございます。

以上です。

○委員長（菊川敬人）

山田委員。

○2番（山田貴弘）

2番、山田貴弘です。

今、部長答弁の中で、庁舎の必要性について町民集会を行うのだという発言をされましたが、それはどうなのかなという。要するに、必要性はあるわけだから、必要性に対して、もっと内容を、計画を示した中で、こういう状態になっているから必要なのだよという部分をプラスアルファするものなのか、そこら辺、入りが間違えてしまうとしっちゃんめっちゃかになると思うので、再度、町民集会をどういう形の中で庁舎建設に付加価値をつけた中で行っていくのかというのが1点、再度聞きたいのと。

あと、先ほどの分科会の話なのですけれども、極端なことを言うと、ワークショップ形式で行政内部でやった分科会の内容を町民を入れた中で議論し合うというのも一つの手だと思うのです。分科会というのは、行政側から見た視点で要はプランを、こういう庁舎がいいという見方をしているわけではないですか。外部から見たときの庁舎のあるべき姿、また職員の姿勢、環境というものが、恐らく、これ、答申に入っているから入っているのだよという言い方もあるとは思いますが、答申からかみ砕いたのが分科会の中で、より基本設計のほうに反映していくと思いますので、そこら辺を何か、町民の視点を入れた中での議論が一回必要ではないのかなという。

それが町民集会なのだよと言えば、町民集会の成果というものを我々特別委員会の中でも示していただきたいというふうに思いますので、今後の計画の中で、一方

的に言うだけではなくて、やはり1ランク下げた中での町民の意見というものも我々は聞いた中で判断をしていきたいと。要するに、判断というのは予算審議の中でオーケーを出していきたいというふうに思いますので、ここら辺の計画について考えをお聞きしたいと思います。

○委員長（菊川敬人）

行政推進部長。

○行政推進部長（加藤順一）

もしかしたら私のご説明が悪かったのかもしれませんが、町民集会で庁舎建設の必要性のお話、これが、町長の思いといたしましては、まだ町民の方に十分ご理解いただいていない向きもあるという判断の中で、これを全町民に十分にご周知申し上げたい、庁舎建設がなぜ今、必要なのかという部分を町民全体にご理解いただく必要があるのだということを改めてご説明したいという趣旨での発言でございましたので、そういうことをご理解いただきたいと思います。

○委員長（菊川敬人）

財務課長。

○財務課長（田中栄之）

それでは、後段の部分ですけれども、以前、たしか、お話をしたのではないかと思いますけれども、年度が明けたぐらいの段階で、いわゆる各種団体等の方において、懇談会と言うとおかしいですけれども、町としてはこういうことを考えていますよという形で、お話をぜひお伺いしたいということで考えていますというお話をさせていただきました。

それと、もう1点、大事なことは、我々としては、このお話を町民の方としないということは一切ございませんので、例えば、今日であっても、明日はちょっとだめですけれども、いつでも私ども財務課の窓口においていただければ、どんなお話でもお伺いをさせていただきますので。また、もう一つの手としては、当然、町にはホームページあるいは庁舎にかかわる投稿するシステムもございますから、そういったところでコメントをいただいて、ぜひ多くの方の意見をお伺いしたいというところは、もう全く、ただいまご指摘いただいたとおりで。

何も聞かないというか、逆に私どももお聞かせいただきたいという立場は終始持っているつもりでございますので、また議員の皆さんも、そういうお話があれば、ぜひ私どものほうに行くようにということで言ういただければ、喜んでお話をお伺いしたいというふうに考えてございますので、その点、1点、お願いしたいというふうに思います。

○委員長（菊川敬人）

ほかにございますか。

では、和田委員で最後にしたいと思います。和田委員、どうぞ。

○8番（和田繁雄）

では、最後の質問ではないのですが。いろいろな言葉が並んでいまして、何か言

葉をずっと並べているだけの気がしてしょうがないのですが。特に気になるのがBCP、いわゆる町としての機能をどう継続させるかという、これ非常に大事なポイントだと思っているのですが、BCPに関して、例えば、防災計画との連動性。これ、本当に単に言葉だけではなくて、町民の方の安全があって町としての機能をどう保っていくか、非常に重要なポイントだと思いますので、その辺の考え方だけ教えていただきたいと思いますが。

○委員長（菊川敬人）

行政推進部長。

○行政推進部長（加藤順一）

お答えします。

町民の方の安全という部分に関しましては、地域防災計画上に定めているところでございます。次に、BCPのお話につきましては、これも単独で用意しているところでございます。ただ、今、BCPで要請される場所の庁舎が拠点としての機能を今現在、備えていないという状況の中にありますので、BCPを満たすために必要なものを庁舎建設の中で合致するように用意していきたいと、こういう形になってございます。

以上です。

○委員長（菊川敬人）

もう一回、どうぞ。

○8番（和田繁雄）

今、部長のほうからお話いただきましたので。後からパズルをはめるのではなくて、これ基本計画ですよ。だとしたら、ほかの計画、きちんと町としての機能をどう保つか、そういうものを考えた上で出してくるのが基本計画。私は何度も申し上げますけれども、これ基本計画ではないと思っているのですが。そういう意味では、やはり、全体、こういうふうに言葉を並べるのであれば、ほかの計画との整合性、これをきちんとどうとっていくか、その辺を見た上で基本計画としてきちんと出していきたいというふうに思っております。

これは、多分、いろいろな同僚議員から質問のあったこと、これを総合すると、何か知らないけれども言葉だけあちこちに飛んでいるけれども、全体として、この町の継続性、発展性、成長性、これをどう保つために今回の新庁舎の建設がどういう位置付けにあるのだと、その辺がわからないので、あちこち飛んでいる気がしてしょうがないので。その辺、もう一度、きちんと、何のための新庁舎。これは、もう、先ほど山田議員もありましたけれども、新庁舎の建設、これを反対しているものではありません。何のためにというのが明確ではないので、教えてほしい、もっときちんと明確にしてほしいというのが我々の今回の特別委員会の趣旨だというふうに思っていますので。

ちょっと、これ、今後とも、また、いろいろわからないところについては質問していきたいと思いますので、最終的な答えは、先ほど課長のほうからもありました

けれども、お金の問題、どういうふうを考えているか、これが出た上で、我々はど
ういうふうに賛成をさせてもらったらいいいのか、その辺を考えたいというふうに思
っておりますので。これが最後の私の質問です。

○委員長（菊川敬人）

行政推進部長。

○行政推進部長（加藤順一）

業務継続計画については、委員の皆さんにはお示しをしていたか、ちょっと私、
定かではないのですけれども。申しわけございません。そちらのほうで、本来であ
れば、庁舎にこういう機能を持たせたい、災害が起きたときに直ちに復旧し、通常
の業務を継続するためにはどういうふうにしていかななくてはいけないのかといった
部分において、今現在は、災害対策本部につきましても、この庁舎に不都合が起き
た場合は町民センターに代替的に立てるといような形になってございます。

今現在の庁舎の状況がそうであるから、次期防災計画、それから業務継続計画に
ついては、そういう記述になってございますけれども、それが効率的・機能的な。
災害が起きたとき、本来でしたら直ちに町民の皆様いろいろな応急の手当て、復
旧に向けての機能を果たさなくてはいけないところが、この庁舎が十分ではないが
ために、そういった次の段階まで時間があいてしまうだろうと。そういうことを想
定しての現状の中での業務継続計画はございます。

ですので、逆に言えば、この庁舎のほうがなれば、それに合わせた形の業務継続
計画、その時点の状況に合ったものをつくっていかなくてはいけない。これは、ど
ちらが先、あちらが先というわけではございません。そういった部分は、折々、そ
の都度その都度に委員の皆様にお示ししながら、現状はこうであるから、こうい
う形の計画になりますよ、新庁舎がなった場合はこういう形になりますよ、これはま
た改めてお示しをしたいというふうな感じ、このように思っているところでござい
ます。

以上です。

○委員長（菊川敬人）

以上で新庁舎建設基本計画（案）の質疑を終了します。

次回は、本日の新庁舎建設基本計画（案）について、引き続き質疑を行います。
今後のスケジュール及び調査内容について協議を行いたいと思います。

以上で、本日の新庁舎に関する調査特別委員会を終了いたします。お疲れさまで
した。

午後 2時45分 散会